

2024年 日化協 LRI 研究報告会プログラム

日時：2024年8月23日(金) 10:00～17:00

開催方法：東京証券会館 および Webex によるオンライン配信

午前の部		(敬称略)
10:00-10:05	開会挨拶 進藤 秀夫 (一般社団法人 日本化学工業協会 専務理事)	
10:05-10:55	第11期 終了した研究課題の報告 座長：篠原 基輝 (AGC株式会社) ：福井 浩子 (株式会社レゾナック)	
	肺胞マクロファージ細胞株を用いた炎症性微粒子評価法の開発および微粒子の化学的特性の解析 代表研究者 黒田 悦史 (兵庫医科大学 免疫学講座 主任教授)	
	2層膜皮膚拡散モデルを用いた化学物質の経皮暴露後の吸収性 in silico 予測 代表研究者 藤堂 浩明 (城西大学 薬学部 薬科学科 薬粧品動態制御学研究室 准教授)	
10:55-11:00	(準備)	
11:00-11:40	LRI 賞 受賞者講演 座長：森田 修 (花王株式会社)	
	シリカ不織布(SNF)を用いた新たな三次元皮膚モデルの開発 ～動物実験代替法としての応用～ 【日本動物実験代替法学会 第8回 LRI 賞】 飯島 一智 (横浜国立大学 大学院 工学研究院 准教授)	
	メチル水銀による末梢感覚神経障害とその回復機構 【日本毒性学会 第10回 LRI 賞】 篠田 陽 (東京薬科大学 薬学部 公衆衛生学教室 准教授)	
11:40-13:00	昼食休憩	
午後の部		(敬称略)
13:00-13:10	第12期 採択中の研究課題の事務連絡	
13:10-14:40	第12期 採択中の研究課題の進捗報告 (ポスター発表) 12課題を2つのグループに分けて発表します。詳細は下記<実施要領>をご参照ください。 会場参加者 : 13:10よりロビーにてポスター発表にご参加下さい。 オンライン参加者 : 13:35よりQ&Aを行いますので、ブレイクアウトセッション※へ移動願います。 ※オンライン参加マニュアル参照	
	(休憩)	
14:50-16:10	シンポジウム : 「化学物質管理の新たな枠組み GFC※の実現に向けて ～サーキュラーエコノミー実現への取り組み～」 座長：須方 督夫 (一般社団法人 日本化学工業協会 常務理事)	
	2020年以降の国際的な化学物質管理動向と化学物質に関するグローバル枠組み(GFC)の概要 高木 恒輝 (環境省 化学物質安全課 水銀・化学物質国際室長)	
	Global Framework on Chemicals(GFC)と我が国の化学物質管理 大本 治康 (経済産業省 産業保安・安全グループ 化学物質管理課長)	
	サーキュラーエコノミー実現に向けた日本企業への示唆 織 朱實 (上智大学大学院 地球環境学研究科 教授)	
	花王のGFC推進活動 ～油脂資源を有効活用した界面活性剤バイオ IOSの開発～ 西 隆文 (花王株式会社 マテリアルサイエンス研究所 第2研究室 室長)	
16:10-16:50	総合討論 ファシリテータ：須方 督夫 (一般社団法人 日本化学工業協会 常務理事)	
16:50-17:00	閉会挨拶 北野 大 (LRI 顧問会議 議長)(秋草学園短期大学 学長)	

※Global Framework on Chemicals

【ポスター発表 実施要領】

<会場(ロビー)>

13:10 - 13:55 奇数グループの発表

13:55 - 14:40 偶数グループの発表

<オンライン: ブレイクアウトセッション>

13:35 - 13:55 偶数グループの Q&A 実施

座長: 新野 竜大(三菱ケミカル株式会社)、石原 あゆ実(住友化学株式会社)、黒川 嘉彦(日産化学株式会社)

13:55 - 14:00 奇数グループの Q&A 実施

座長: 小川 良二(株式会社レゾナック)、小島 聡史(ライオン株式会社)、齋藤 光芳(三井化学株式会社)

敬称略

課題番号	研究課題	氏名	所属
① 22-1-04	ヒト iPS レポーター細胞を用いたシグナルかく乱を指標とする発生毒性試験法	福田 淳二	横浜国立大学 大学院 工学研究院 教授
③ 22-3-01	生理学的薬物動態モデルを用いる化学物質のデータ駆動型ヒト体内ばく露量予測手法の開発	山崎 浩史	昭和薬科大学 薬物動態学研究室 教授
⑤ 23-1-03	ゼブラフィッシュを用いた催奇形性評価の代替法開発	平田 普三	青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 教授
⑦ 22-6-02	反復投与毒性の評価のための統計学的・数理科学的アプローチによる客観的なリードアクロス手法の開発	吉成 浩一	静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野 教授
⑨ 23-6-03	神経毒性・発達神経毒性試験の代替法の OECD TG 提案を目指した AOP475 公定化のためのバリデーション研究	關野 祐子	東京大学 大学院 農学生命科学研究科 特任教授
⑪ 24-6-01	ヒト Th2 細胞からの IL-4 産生を指標に呼吸器感受性を評価する共培養系の開発	善本 隆之	東京医科大学 医学総合研究所 免疫制御研究部門 教授
⑫ 22-5-03	マイクロプラスチックのベクター効果推定モデル構築とそれを用いた実環境中での影響予測	大嶋 雄治	九州大学 大学院 農学研究院 教授
④ 22-D-01	リスク評価に寄与するマイクロプラスチック生成の機構・速度の解明および標準マイクロプラスチックの調製	比江嶋 祐介	金沢大学 理工研究域フロンティア工学系 准教授
⑥ 23-5-06	閉鎖性海域 大阪湾をモデルケースにした MP の生態リスク評価	堀江 好文	神戸大学 内海域環境教育研究センター 海洋環境管理研究室 准教授
⑧ 23-5-08	マイクロプラスチック汚染のリスク対策に資する環境負荷量・発生源解析と環境リスク評価の実践	内藤 航	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究グループ長
⑩ 23-6-01	生物利用可能性を考慮した生態リスク評価手法の開発 —試験困難物質に対する毒性モデルの構築—	加茂 将史	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員
⑫ 24-5-08	プラスチック資源循環に資するリスクベースの再生プラスチック等級の設定とその適用に関する検討	小野 恭子	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究グループ長